

日中経済討論会 2004

11月11・12日 於 大阪国際会議場

(有)光伸製作所 近藤 俊行

去る、11月10日(水)～12日(金)と大阪国際会議場にて日中経済討論会2004へ経済産業省・近畿経済産業局さまのブースをお借りしまして、(株)オレガディール様、京都試作ネット、機青連での共同出展をまいりました。

12日には、「京都モデル」について今井賢一先生と鈴木社長がプレゼンをされる事もあり、機青連五重塔と製作の過程を中国語でのパネルを作成し、A4サイズの機青連パンフレット(日本語・中国語)も作成しPRして来ました。今回ブースで一緒させて頂きました。(株)オレガディール春山様よりのメールでマスコミやメーカーさんが機青連・試作ネットに興味があるとの報告も頂いており目的でありますPRのきっかけになったかなと感じております。急な出展とはなりましたが、皆さんの協力で無事終える事が出来ました。

日中経済討論会開催主旨を参考までに載せておきます。

(1) 去年の中国の経済成長率は9.1%だった。日本も昨年後半から回復基調になり、国内外に対する投資マインドも回復しつつある。これを受け両国のビジネスでは、今まで以上に中国でのチャンスを経営戦略に反映させたり、日本企業の強みを活用した日中連携ビジネスを始める動きも多々見られた。



(2) こうした中、今後中国は中期的に持続可能な成長を続けていけるのか、それとも世界の資源・エネルギーを吸収し続けて世界のインフレ要因になるのかという視点もクローズアップされてきた。他方、日本はその持てる強みを生かし、現在の回復の兆しを定着させられるのかも問われている。

(3) 去年は国際貿易における中国のウェイトがさらに拡大した年でもある。中国の対世界貿易額は大きく増加し、日本の対世界貿易額(世界第三位)とほぼ水準になった。日中二国間で見ても、中国にとって日本は引き続き第一の貿易相手国。日本にとって中国は現在第一の輸入相手国、第二の輸出相手国だが、輸出入合わせて第一の貿易相手国になる日も遠くないだろう。

(4) こうした中で、東アジア大での通商戦略、経済連携のネットワーク作りに日中双方がどう取り組むかが大きな関心を惹いている。日本はシンガポールとの経済連携協定を既に締結・実施し、メキシコとも今春実質合意。韓国、タイ、マレーシア、フィリピンと交渉中、ASEAN全体とも来年から交渉を開始する方向だ。他方、中国は昨年香港とCEPAを締結・実施したのに続き、ASEAN等とも交渉中、その他の国々とも広く可能性を探っている。北東アジア地域では日中韓3国が首脳合意に基づき日中韓FTAの研究を実施中だ。東アジア自由貿易協定(EAFTA)を柱の一つと位置づける東アジア共同体の議論も高まりをみせている。今後、東アジアの経済、貿易が拡大していく中で、日中両国の通商戦略にはどういったフロンティアがあるだろうか。

(5) 日中の経済・貿易の拡大に伴い、両国産業がグローバル市場で競争していくとともに、それぞれの得意分野をもとにした、特に製造業分野の「分業」、セグメント別の「棲み分け」に関心が高まっているが、これらは可能かどうか、また、どう考えたらいいのか。さらに、日中企業は両国の「優秀な頭脳・人材」をうまく活用できるか、日中の消費財マーケットの構造はどう違い、うまくマーケティングを進めていけるのかどうか、どのような相互補完的アライアンスを組むことが可能だろうか。

(6) 本討論会は今回で四回目。昨年に引き続き、今後10年先、20年先の両国経済、貿易の行く末を展望できるような活発かつ率直な討論会を目指したい。